



CONTENTS

カンボジアスタディツアー報告記ほか	2
Viagem de estudo no Camboja	4
My impressions of "Cambodia Study Tour"	5
じぎょうほうこく 事業報告	6
JICA 通信「 <small>つうしん</small> 青年海外協力隊活動紹介 <small>せいねんかいがいきょうりょくたいかっどうしやうかい</small> ドミニカ共和国 <small>きょうわこく</small> 」	7
YIA Event Calendar	8

カンボジアスタディツアー

昨年12月、国際交流協会設立25周年記念事業の一環として「カンボジア・スタディ・ツアー」を実施しました。JICA、CMAC（カンボジア地雷対策センター）、地雷除去現場訪問他、地雷除去後の復興地域で行う「農業収穫祭」に参加し、人々の生活文化に触れ、また小学校や児童養護施設の子も達との交流をとおしてカンボジアの今を体感するスタディツアーとなりました。

Em dezembro do ano passado, como parte do projeto em comemoração aos 25 anos da fundação da Associação Internacional foi realizada a "Viagem de Estudo no Camboja". Foi uma viagem de estudo com visitas ao JICA, CMAC (Centro de Medidas contra Minas Terrestres do Camboja), locais de remoção de minas terrestres e participação no "Festival da Colheita" promovido para a reconstrução regional após a remoção de minas e ainda foi realizado intercâmbio com crianças de escolas e orfanatos sendo possível o contato com o cotidiano e cultura dos moradores locais e assim conhecendo o Camboja atual.

In December last year, as the 25th anniversary event for Yamanashi International Association, "Cambodia Study Tour" was held. Participants visited JICA, CMAC (Cambodian Mine Action Centre), minefields, etc. They also participated in "Harvest Festival" held at the reconstruction area from mining in order to experience Cambodian lifestyle and culture. Through the exchange with children of elementary schools and orphanages, the participants could experience Cambodia.



(公財) 山梨県国際交流協会設立 25 周年記念事業

カンボジアスタディツアー

2015 年 12 月 19 日 (土) ~ 26 日 (土)

(公財) 山梨県国際交流協会 事務局長/団長 市川 由美

中学 1 年生からシニアまでの世代を超えた 22 名の参加者とスタッフ合わせて 25 名が様々な角度からカンボジアを学びました。私たちはカンボジアの首都プノンペンに到着し、まず、内戦の歴史を学ぶためトゥールスレン博物館、キリングフィールドを訪れました。ポルポト政権下の想像を絶する悲惨な歴史に心を痛めるとともに、これらの出来事が遠い昔のことではなく、まだ 30 数年前の出来事であったことに大きな衝撃を受けました。更に、内戦の負の遺産であるバットアンバン地雷原を訪れ、現地の人々が今も地雷に苦しめられている現実を肌で感じました。

こうした状況下、(株)日建の雨宮社長の地雷除去機の開発により、地雷撤去が飛躍的に進み、地雷原が豊かな土地に蘇り、安心して農作物を育てることができるようになったのです。カンボジアの人々は彼のことを「私たちの英雄、地雷除去の父」と呼ぶそうです。

私たちが参加した「農業収穫祭」に出品された見事な野菜や果物を見て、雨宮社長の偉業の大きさを改めて実感し、この英雄が山梨県人であることを誇らしく思うとともに、心から敬意を表する思いでした。

私たちは小学校や児童養護施設を訪れ、持参した新聞でカプトを作り、岩崎さんのギターでカンボジアの愛唱歌である「アラビア」を歌うなど、遊びをとおして心が通い合えた思いでした。他方、教育環境は決して十分とはいえません。ハード面のみならずソフト面の充実、特に教育の質の向上の必要性を強く感じました。『国づくりの原点は教育』です。そのために私たちにできる支援はまだまだあると感じました。

振り返ってみると、首都プノンペンは急速な発展を遂げる一方、少し離れると貧しい農村の暮らしが広がりその較差に驚きました。しかし、そこに暮らす人々は苦しい過去を持っているにもかかわらず笑顔を決やさず、誰もが温かく接してくれました。特に子どもたちの澄んだ瞳はキラキラと輝いていました。

私たちはカンボジアを様々な角度から眺め、物資だけではなく技術面での支援の必要性を強く感じた一方、経済的には貧しくても心の豊かさを比較したとき、私たちがカンボジアの人々から学ぶべきものがあることを実感しました。

今回のツアーでの体験を今後多くの方々へ伝え、国際協力、国際貢献への理解促進を図っていきます。

カンボジア

報告記

参加者 3 名の感想を紹介します。



羽中田 寛 (はちゅうだ かん)

韮崎中学校 1 年

カンボジア・スタディ・ツアーを終えて

僕は楽しい気分ですツアーに出かけました。飛行機の窓から日本の町がだんだん小さくなりワクワクしました。

プノンペンは空気が暖かく水がぬるい。水は飲めず水を買う。クリスマスツリーには雪のモニュメントは無い。バイクは荷物をたくさん積んで走っている。バイクに 5 人乗ってる。信号なんてあったっけ？日本とはまったく違う町でした。

内戦の歴史を学んで「かわいそうだな。」と思った。僕は戦争を知りません。毎日の悩みも大きなものはありません。もしも僕がカンボジアの人だったら地球くらい大きな悩みがあったらう。

地雷除去体験では防護服を着て地雷原を歩いた。重くて、暑くて気持ち悪くなってしまった。バットアンバンでは毎日何時間も重く暑い防護服を着て地雷を探す人がいる。地雷を踏んで死んでしまうかもしれない人のために、本当の平和のために働く人が暑い国カンボジアにいてすごいなと思いました。

地雷を安全に早く探し出し除去する機械

を作る人が日本の僕の家の近くの南アルプスの会社にいます。雨宮社長はカンボジアの悲しむ人に出会って地雷除去機を開発しました。近くにそんな凄い人がいることは僕の大発見でした。

僕はこのツアーでたくさんの小学校と児童養護施設を訪問し同年代の人やちいさな子どもたちと出会い折り紙を折ってあげました。手裏剣を折るのが得意な僕は数えきれないほど折りました。

子どもたちに手渡すと取り合いになってもらってくれました。

雨宮社長みたいに立派なことは出来ないけれど、僕の折った折り紙で嬉しそうに笑ってくれたことは小さいけれど支援が出来たようで嬉しかったです。

僕は中学 1 年生で中学校では支援学級にいます。僕も支援を受けて勉強をしていますが、折り紙を折ったように僕ももっと勉強をして自分に出来る支援をしたいと思いました。

地雷で足を失くした人を目の前で見たときは、何とも言えない気持ちになって、彼やストリートチルドレンたちはお金を求めて私たちに近寄ってきたけど、何もあげられず対応に困ることが何度かありました。私はあのときどうすればよかったのだろうと今でも考えます。

地雷の撤去現場で命懸けで撤去している人を目の当たりにして、そう簡単に足を踏み入れていい場所ではないと感じました。日建さんが開発した地雷除去機が現場で役立っているのを見て、一刻も早く安全に全て取り除かれ、地雷が埋められることがないようにと思いました。たった200円で誰かの日常、人生を奪ってしまうなんてことはあってはならないと強く思いました。

収容所やキリングフィールドに行ったとき、苦しんでいる人の声が聞こえてきそうで、見れば見るほど自分と同じ人間が引き起こしたのだということが信じられませんでした。家族でさえも信じられなくて自分が生きるために必死だった時代があった30年前にそこで起こっていたこととは、一日目に見たプノンペン街の発展の様子からは想像できませんでした。一日目は、カンボジアは温かい人が多く活気がある国だと感じたけど、その表面の印象とのギャップが大きかったです。街であった笑顔の印象的な果物屋のおばさんは、笑顔で自分の過去を隠しているのか、もしくは彼女は今幸せだから笑えるのか、ど

ちらなのか気になります。家族と幸せに過ごしていたらいいと思います。ポルポト政権が引き起こしたことと同じように、日本も一時は加害者だったという歴史をもっているの、カンボジアの歴史を知るとともにもっと自国の歴史をきちんと知っておくべきだと感じました。そして、世界中で二度と同じ歴史を繰り返さないためにも、歴史を伝えることは欠かさずしなければならぬと思いました。

このツアーでは現地の子どもと触れ合う機会が多くあり、とても癒されました。みんな素直で好奇心旺盛で、学校に通えること、学べることに感謝しているように感じました。みんなが学びたいことを学び、自分の夢に向かって強く生きていってほしいと強く思いました。日本のことを知ってもらうために何かすればよかったなと思いました。また会いに行きたいです。

私は今回のツアーでカンボジアの「現在」と「過去」を見ることができました。また、自分は何も知らないし、何もできないことを実感しました。何か助けになりたいと思っても、無力なのだと痛感することが多かったです。世界には美しいものも醜いものもどちらもあるのだと初めて自分の目で確かめられたので、もっと知らないものを知りたい、見たことない光景を見たいと自分の人生で次につながるものを得られたツアーになりました。

多くのものに出会った旅



嶋川 真希子 (しまかわ まきこ)

山梨県立大学1年

カンボジアと言えば地雷、貧しい。そんなイメージだけどどんな国なのだろう、テレビでよく見るカンボジアという国を知りたいという気持ちで今回のツアーへ参加しました。

それぞれ熱い想いを持つ参加者のみなさんと1週間カンボジアで過ごして、一番印象に残ったことは子どもたちの笑顔です。ツアー初日から最終日まで様々な場所でたくさんの子どもたちに出会いました。笑いかけると笑い返してくれる子ども、歌で笑顔になる子ども、「ニョニョーム！」と嬉しそうに笑う子ども。そんな姿を見て、子どもたちの笑顔は世界共通のパワーを持っていて、大人たちや国の原動力、そして宝物なのだと感じました。しかし、笑顔でいられる子ども達ばかりではありませんでした。ボロボロの服を着て、裸足で「1\$…1\$…」とせがんでくる子どもや、道の端でぐったりと座る子どもに出会う度、心を痛め、「この子たちが笑顔でいられるためには…」と考えさせられました。

小学校訪問では、授業の様子や子どもたちとの交流をさせてもらい、日本との教育環境の違いに驚きました。ノートや鉛筆はもちろんありません。あるのは黒板と教師と机だけでした。カンボジアは決して恵まれた環境と

は言えません。今、カンボジアは安心して幸せに暮らせるように努力しています。これから先、カンボジアが発展していくためには子どもたちが教育を受けることが大切です。十分であると言えない学校現場の現状とカンボジアの文化を目の当たりにして、改めて教育の重要性と責任を感じました。

今、カンボジアを大きく支援しているのは日本です。現地へ移住して人生をかけてカンボジアのために働く日本人もいます。また、今回のツアー参加者の方々でも特技を生かしてカンボジアを元気づけたり、子どもたちが喜ぶような出し物を考えたり、カンボジアについて知って少しでも力になりたいと考えている人達ばかりで、国境関係なしに人間が人間を支える日本人の素晴らしさと日本人であることに誇りを感じました。

私は、4月から日本の小学校教員として社会へ出ます。今回のツアーで学び感じたこと、現地で実際に見てきたことを伝え、生かしていけるよう努力していきたいです。そして、いつかカンボジアの人々が苦勞しなくてもいいように、幸せに暮らしていけるように祈り、支援していきたいです。

子どもたちから学ぶカンボジア



近藤 綺音 (こんどう あやね)

都留文科大学4年

Terminando a " Viagem de estudo no Camboja "

Kan Hachuda, aluno do 1ºano do Nirasaki Nishi Chugakko



Parti para a viagem com sentimento de diversão. Da janela do avião fiquei impressionado ao ver as cidades do Japão ficarem cada vez menores.

O ar de Phnom Penh é quente e a água é morna. Se compra água para beber. Não há enfeites de neve nas árvores de natal. As motos correm carregando muita carga. Tem moto transportando 5 pessoas. Será que existe sinal de trânsito? É uma cidade completamente diferente do Japão.

Senti dó ao aprender sobre a história da guerra civil.

Eu não conheço a guerra. Não tenho grandes preocupações no dia a dia. Se eu fosse de Camboja, acho que teria preocupações do tamanho da terra.

Na experiência no local de remoção de mina terrestre vesti a roupa de proteção apropriada para a remoção de minas e andei no campo de minas terrestres. Me senti mal pelo peso e pelo calor.

Em Battambang, diariamente por longas horas vestindo roupa de proteção pesada e quente existem pessoas que procuram minas terrestres. Fiquei impressionado que existem pessoas que trabalham num país quente como Camboja pela verdadeira paz, em prol de pessoas que podem morrer pisando essas minas.

A pessoa que produz a máquina que procura e remove em segurança as minas terrestres se encontra numa empresa em Minami Alps perto de onde moro. O presidente da empresa Amemiya, ao conhecer as pessoas desesperadas do

Camboja desenvolveu uma máquina de remoção de mina terrestre. Foi uma grande descoberta saber da existência dessa grande pessoa por perto.

Nessa viagem visitei escolas primárias e instituto de apoio infantil onde conheci crianças pequenas e também de minha idade, fiz dobraduras de papel para presentear-las. Dobrei incontáveis 「shuriken」 que tenho habilidade em dobrar. As crianças brigavam para ganhar as dobraduras que distribuía.

Não posso fazer algo fabuloso como o presidente Amemiya, o sorriso das crianças pelas minhas dobraduras foi um pequeno ato, porém fiquei contente por ter conseguido oferecer um auxílio.

Eu sou aluno do 1ºano do ginásio e estou numa sala especial de apoio. Eu também estudo recebendo apoio, assim como as dobraduras, penso em estudar mais para poder dar mais apoio ao meu alcance.

World Charity Christmas 2015



No dia 12 de dezembro (sábado) no Centro Internacional foi realizado o tradicional 「World Charity Christmas」 festa de natal beneficente.

Mais de 450 pessoas participaram e se divertiram fazendo intercâmbio internacional. O lucro obtido pela venda do world gourmet, christmas market e sorteio totalizou 133.600 ienes que será doado integralmente em prol do 「Apoio a refugiados da Síria」 através da Associação UNHCR das Nações Unidas.

Seminário para Voluntários em Caso de Desastres & "Experiência em abrigo" para residentes estrangeiros na cidade de Chuo



No dia 31 de janeiro (dom) foi realizado na cidade de Chuo (Tamaho Sogo Kaikan) um evento de apoio a estrangeiros em caso de desastres.

No período da manhã cerca de 30 voluntários e integrantes de apoio a estrangeiros participaram do seminário 「Apoio a estrangeiros em caso de desastres」 ministrado por Nobuyuki Takahashi, diretor representante do Conselho de Convivência Multicultural.

Na parte da tarde cerca de 40 pessoas dos países China, Brasil, Indonésia, Perú e outros participaram da 「Experiência em Abrigo」 voltado a residentes estrangeiros, onde foi

ensinado o preparo de refeição de emergência e métodos de primeiros socorros da Cruz Vermelha e ainda o Sr Hiroshi Yamashita, representante do Grupo Mirai Voluntário de Prevenção de Desastres apresentou locais que sofreram desastres e a importância da interligação da comunidade.

A população de estrangeiros em Yamanashi é de cerca de 14 mil pessoas, para se preparar para um grande desastre que pode ocorrer a qualquer momento, temos a esperança que o evento foi útil para que o governo, a comunidade, cada um dos moradores incluindo estrangeiros reflita sobre o assunto.



Facebook do Associação Internacional de Yamanashi

Comunicados do Centro Internacional de Yamanashi, informações sobre intercâmbio, cooperação internacional e coexistência multicultural na Prefeitura entre outros estão no Facebook. Não há necessidade de criar uma conta no Facebook. Para as pessoas com conta, favor clicar no botão de 'curtir'.

<https://www.facebook.com/YamanashiInternationalAssociation>

Consulta jurídica gratuita para estrangeiros (somente c/ agendamento)

*A partir de abril, nos dois dias um advogado atenderá as consultas Consultas:

- 1ª quarta-feira do mês, das 18h30 às 21h00 (agendar até 17h da terça anterior)
- 3ª domingo do mês, das 13h00 às 16h00 (agendar até 17h da sexta anterior)

Local: Centro Internacional de Yamanashi
Conselheiro: advogado Tradutor: Johnny Lim
Idiomas: português, espanhol, inglês, indonésio e japonês



Aulas de japonês para estrangeiros

Aulas de japonês para estrangeiros que moram na província de Yamanashi.

※ Aulas Gratuitas

**Data: todas às sextas feiras
Horário: das 18h30 às 20h30**

* Local: Associação Internac. de Yamanashi
Informações pelo tel: 055-228-5419

Kan Hachuda, in the 1st grade of Nirasaki-nishi Junior High School

I was looking forward to going to Cambodia. In the airplane, as the town of Japan became smaller, I felt happy. Phnom Penh was very hot, and water was uncomfortably warm there. In the city, I bought drinking water due to undrinkable one. All of Christmas trees were without snow monument. Most motorcycles were running with a lot of luggage. Five people rode only one motorcycle together. Were there any traffic lights? Phnom Penh was quite different from the city of Japan.

As learning the history of the civil war having occurred in Cambodia, I felt pitiful. I don't know the war, and don't have so big trouble. If I was a Cambodian, I would have the very big trouble same as the earth.

When experiencing demining, I putted on protective clothing and walked in a minefield. It made me feel sick to my stomach because the clothing was very heavy and I felt too hot.

In Battambang, there are some people wearing such clothing and working for

a long time every day. I want to pay my respects to these people, in spite of the risk for death, who detect mines in order to realize the peace of the world.

Near my house in Japan, there is a company in Minami-Alps to produce mine detectors and disposal machines. The president, Mr. Amemiya, developed the machines after meeting Cambodian people who suffer from the risk of mines. It was very great discovery that I knew the existence of such company and the president.

In this tour, I visited many elementary schools and children's nursing homes.

At the schools and homes, I met many people of the same generation and younger, and showed them the process of folding origami. I'm good at making shuriken (Japanese throwing star) with origami, so made a lot of shuriken with origami.

The children were very glad to receive it as struggling each other.



Even though I couldn't do admirable things like President Amemiya, I was very happy that the children were glad with smile to receive shuriken made by me with origami. I don't know how helpful I could, but would do my best to support them.

I am in the 1st grade of a junior high school, a school for special needs, and study every day by receiving the support. In the future, I try to study harder and want to support someone like folding origami in this tour.

World Charity Christmas 2015

On December 12 (Sat.) last year, the annual event "World Charity Christmas" was held at Yamanashi International Center.

On that day, more than 450 persons joined this event and enjoyed international exchange. We donated the total amount of 133,600 yen (collected as proceeds from World Gourmet, Christmas Market, lottery, etc.) to Japan Association for UNHCR in order to support Syrian refugees. Thank you so much for your cooperation.



Volunteer Seminar for Disasters & "Shelter Experience" for Foreigners

On January 31 (Sun.), the event regarding the support for foreigners in case of disasters was held at Tamaho Sogo Kaikan (Chuo City).

At the seminar in the morning, approximately 30 persons from foreigners' support groups and volunteers learned how to support foreigners in case of disasters, taught by Nobuyuki Takahashi, a director of Conference of Multicultural Managers.

In the afternoon, approximately 40 persons such as Chinese, Brazilian, Indonesian and Peruvian participated in "Shelter Experience" for foreign residents, and experience soup-

run and disaster relief of the Red Cross Society, etc. In addition, Hiroshi Yamashita, the representative of non profit organizations. Miraikai, introduced us the details of evacuation shelters. We learned the importance of connection with the local community.

Now, there are approximately 14, 000 foreign residents in Yamanashi. In order to prepare for great disasters that could happen at any time, we wish this event gives residents, as well as foreigners, an opportunity to consider disaster prevention.



インド人シェフが作る本場インド料理!

ランチバイキング 900円
(4-10歳500円 3歳以下無料)
カレー5種・ナン・ライス サラダ・デザート

すべて食べ放題!

インド料理 スーリヤ since 1995

住所/昭和町清水新居 258-1 ダイタ昭和モールA館 101
営業/ Lunch 11:30-14:30 Dinner 17:30-21:30 LO 21:00
☎ 055-267-6979 年中無休/月曜日昼のみ

Aqui temos, exatamente o trabalho que voce procura!

Exigimos nivel de conversação básica em japonês (nivel de entendimento de explicações do serviço)

Temos uma grande quantidade de trabalho
Veja as oportunidades acessando a nossa HPI

⇒ <http://next-age.co>

☎ 19-300122

Next Age inc.

Yamanashi-ken, Nakakoma-gun, Showa-cho, Katonakajima, 963-1
☎ 055-275-3216

「World Charity Christmas 2015」



昨年 12/12 (土)、国際交流センターにて恒例の「ワールド・チャリティ・クリスマス」を開催しました。

当日は 450 名を超える方々にご参加いただき、楽しみながら国際交流を深めることができました。ワールドグルメ、クリスマスマーケット、抽選会等の収益金の合計 133,600 円を「シリア難民への支援」として国連 UNHCR 協会に全額寄付させていただきました。

ご参加いただいた皆さま、協賛企業や団体の皆さま、関係者・ボランティアの皆さま、ご協力をありがとうございました。

やまなし国際ネットワーク

YIN 新春多文化交流会



1/17 (日)、やまなし国際ネットワーク (YIN / 加藤順彦会長) は、「YIN 新春多文化交流会」を開催し、会員や外国人住民等、120 名を超える皆さんが参加しました。

新春の午後、世界の歌やダンス、それぞれが持ち寄った自慢の料理を楽しみながら交流を深めました。

「やまなし国際ネットワーク (YIN)」は、山梨県内で国際交流・国際協力活動を行う 31 団体によって構成されています。団体相互の連携と協力関係を密にしながら、情報交換と共同事業を実施しています。

人材育成 & 多文化共生推進事業

災害時ボランティアセミナー & 外国人住民のための「避難所体験」@ 中央市



1/31 (日)、中央市「玉穂総合会館」で災害時の外国人への支援に関するイベントを実施しました。

午前のセミナーでは、外国人支援団体やボランティアの皆さん約 30 名が多文化共生マネージャー協議会理事の高橋伸行氏から「災害時における外国人支援」について学びました。

午後の外国人住民を対象とした「避難所体験」では、中国、ブラジル、インドネシア、ペルー人など約 40 名が参加し、炊き出しや赤十字の救急法などを体験したほか、災害・防災ボランティア未来会代表の山下博史氏から災害現場の避難所の様子が紹介され、日頃からの地域の繋がりの重要性を強調されました。

山梨県の外国人住民は約 14,000 人、いつ起きても不思議ではないといわれる大規模災害に備え、行政や地域、外国人を含めた住民一人ひとりが、防災について考えるきっかけになることを期待します。

共催 / 中央市、中央市国際交流協会、山梨県ボランティア協会
協力 / 災害・防災ボランティア未来会、中央市社会福祉協議会

伝えたいをカタチにする一滴

<http://www.ozp.jp>



出版 印刷 紙工

株式会社オズプリンティング

☎ 055-235-6010 (代)

〒400-0032 甲府市中央3丁目8-10 FAX:055-232-4098 E-mail: info@ozp.jp

青年海外協力隊 活動紹介



青年海外協力隊
林 はやし
育子 いくこ

私は青年海外協力隊として2年間(2014年1月～2016年1月)、ドミニカ共和国で助産師として活動してきました。

ドミニカ共和国はカリブ海に位置した亜熱帯気候の国です。四季はありますが、平均気温は30℃位であり、雨季(6～9月頃)、乾季(10～1月頃)に分かれています。そのため、亜熱帯のおいしい果物を一年中食べることができます。

また、ドミニカ共和国はイスパニョーラ島という島国にありますが、国境を境にしてハイチ共和国と隣接しています。

私の任地は、内陸に位置するラ・ベガという都市でした。配属された勤務先は小さな病院で、病床数14床で産科と小児科のみ。外来は産科や小児科など15科ほどありました。ドミニカ共和国ではボランティアの医療行為が禁止されていたため、私は主に保健指導や乳児健診を中心に行っていました。助産師である私は、妊婦や産後の母やベビーを対象として活動しました。現地の人々は、基

本的に病気の予防をするという考えがないため、病院に来る時にはすでに病状が悪化している場合が多いです。そのため、私は主に病気の予防に力を入れて活動を行ってきました。食事はすべてと言っていいほど、大量の油、塩、砂糖を入れて作られています。また、運動習慣もないためが糖尿病や高血圧を合併した妊婦がととも多くいました。そこで、保健指導は栄養を中心に行いました。私が対象としていた妊婦さんは貧困層が多かったため、日本のようにテキストを用いた説明を理解することが難しい人たちがばかりでした。画用紙やクレヨンを用いて、イラストを描いたり印刷をしたりして栄養教材作りを工夫しました。視覚的に見た教材はとともわかりやすかったようで、多くの患者さんに理解してもらうことができました。

伝える対象に合わせて教材を作ったり、内容を考えることはとても難しいことでしたが、この2年間の活動を通して、とても良い経験ができたと思っています。



1 近隣の村での栄養講座 2 一番美しいと言われる海 バイアデラスアギラス
3 配属先の病院で医学研修生と 4 乳児検診の様子

NEW!

こんにちは!

1月からJICA山梨デスクに勤務しているオードラン萌です。夫がフランス人なので「オードラン」ですが、旧姓は「渡邊」で身延町生まれの山梨県人です。

2006年から2年間、青年海外協力隊員として中米のニカラグアへ派遣され、小学校教諭として地元の先生たちと一緒に小学校で活動しました。(ニカラグアは私の第2の故郷になりました!) 帰国後は、山梨で小学校教諭として

働いたり、世界を放浪したり、日本中を転々と、様々な仕事をしながら、たくさんのお逢いがありました。これまでの経験を活かしながら、みなさんと一緒に「世界への扉」を開けていきたいです。



JICA 山梨デスク オードラン 萌 JICA <http://www.jica.go.jp>
〒400-0035 甲府市飯田二丁目2-3 (公財) 山梨県国際交流協会内
Tel. 055-228-5419 Fax. 055-228-5473 jicadpd-desk-yamanashiken@jica.go.jp

国際交流センター会議室 ネット予約できます!

国際交流センター会議室の貸し出しを行っています。
国際交流センター会議室が、施設予約サービス「やまなしくらしねっと」からご予約いただけます。

※ ご利用3か月前から予約できます。

http://www.yia.or.jp/yia_info/yia_use2.html (詳細はこちらから)

施設予約はこちらのQRコードからどうぞ



国際交流センターをご利用下さい

● 会議室使用料

	午前	午後	夜	全日	超過料金
	9:00a.m. ~ 12:00a.m.	1:00p.m. ~ 5:00p.m.	6:00p.m. ~ 9:00p.m.	9:00a.m. ~ 9:00p.m.	1時間 Per hour
大会議室 Large Conference Room	2,260円	3,410円	3,410円	9,080円	750円
小会議室 Meeting Room	740円	1,130円	1,130円	3,000円	250円

1969年設立
リフォーム実績500件以上!

信頼と実績、まかせて安心!



KOFU
JUTAKU
SETSUBI

親切な街の
水道工事屋さん
水廻りの修理はお任せ下さい!



TOTO リモデルクラブ会員

甲府市上下水道指定工事店
甲府住宅設備株式会社

〒400-0047 甲府市徳行二丁目10-40
TEL.055-228-8821 (代)

リフォーム部門 楽水クラブ

0120-86-3246

YIA Event Calendar

「にほんご講座」

と き 毎週金曜日 午後6時30分～8時30分
ところ 県立国際交流センター
対 象 県内在住で日本語を勉強したい人

「外国人のための無料法律相談」(予約制)

4月より、両日弁護士が担当します。

と き 第1水曜日 午後6時30分～9時
第3日曜日 午後1時～4時
ところ 県立国際交流センター
相談員 山梨県弁護士会
通 訳 林ジョニー氏
言 語 ポルトガル語、スペイン語、英語、インドネシア語、日本語
※ 必要に応じてその他の言語対応可

3月

「医療通訳ボランティアセミナー」

と き 3月5日(土) 午前10時～午後3時30分
ところ 県立国際交流センター
言 語 英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語
定 員 各15名

5月

「外国語 & 外国文化講座」

英語、フランス語、イタリア語等の語学の他、さまざまな国の文化に触れる講座です。
と き 5月 第2週目から全3～15回
ところ 県立国際交流センター

問合せ (公財) 山梨県国際交流協会
tel.055-228-5419

※ 詳細はサイト及びチラシをご覧ください。

Japanese Language Class

Time: Every Friday night, 18:30~20:30
Location: Yamanashi International Center
The class is for foreign residents in Yamanashi and is FREE OF CHARGE.

Free Legal Consultation for Foreigners (reservation required)

As of April 1, lawyers will give you some legal advice every time.

Time: 1st Wednesday, 18:30~ 21:00
and 3rd Sunday, 13:00~16:00
Location: Yamanashi International Center
Consultant: Lawyers from Yamanashi Bar Association
Interpreter: Johny Hayashi
Available in English, Indonesian, Portuguese, Spanish and Japanese.
* If necessary, the other languages available.

May

Foreign Culture Classes

English, French and Italian classes, as well as various culture classes.
Time: starts as of the 2nd week of May (3~15times)
Location: Yamanashi International Center
* The applications will start in April.

Information: Yamanashi International Association Tel: 055-228-5419

Março

Seminário para Tradutor Voluntário na Área Médica

Data: 5 de março, das 10h às 15h30
Local: Centro Internacional de Yamanashi

Maio

Curso de Idioma e Cultura Estrangeira

Cursos de língua inglesa, francesa, italiana e aulas para aprender sobre a cultura de diferentes países.
Data: a partir da 2ª semana de maio (3~15 aulas)
Local: Centro Internacional de Yamanashi
*inscrições abertas a partir de abril.

Informações:

Tel: 055-228-5419 / Fax: 055-228-5473
e-mail: webmaster@yia.co.jp

4カ国語版ウィークリーニュース山梨!

山梨日日新聞社では、県内の一週間の主なニュースや山梨県国際交流協会からのお知らせを、日本語、韓国語、英語、ポルトガル語の4カ国語で紹介しています。

●山梨日日新聞、毎週火曜日発行

“JORNAL SEMANAL MULTILINGUE DE YAMANASHI EM QUATRO IDIOMAS”

O jornal Sannichi Shimbun publica semanalmente as principais notícias e acontecimentos da província além de informações da Associação Internacional de Yamanashi em quatro idiomas: japonês, coreano, inglês e português.

● Publicado todas as terças-feiras no jornal Sannichi.

“YAMANASHI MULTILINGUAL NEWS WEEKLY”

The Yamanashi Multilingual News Weekly is issued every Tuesday on Sannichi Shimbun, featuring major issues and information from the Yamanashi International Association. Available in Japanese, Korean, English and Portuguese.



編集後記

昨年未4年ぶりにスタディツアーで訪れたカンボジア。首都プノンペンにはピカピカの高級車が走り、まばゆいほどのクリスマスイルミネーション。ひどい交通渋滞に立派なイオンモール。何をスタディできるのかと少し不安になった初日でした。

プノンペンから車で数時間走ると以前と変わらぬ田園風景が広がっていました。バスのアクシデントで飛び込んだ民家では、私たちのために、庭先からココナッツの実をとり、ジュースでカンボジア流のおもてなし。突然やってきた外国人集団を歓迎し、家の中まで案内してくれたファミリー、その心のあり方にほっこりと温かくなった午後のひとときでした。

かつて地雷原だった村での「農業収穫祭」や小学校訪問など、交流をとおして笑顔でいられたのは、カンボジアの人々の寛容さ、ユーモア、子どもたちのあふれる好奇心...そして、このディープなツアーを共にした参加者の皆さんそれぞれの熱い熱い想いでした。感謝をこめて。雨宮

Yamanashi

2016年3月・4月・5月号

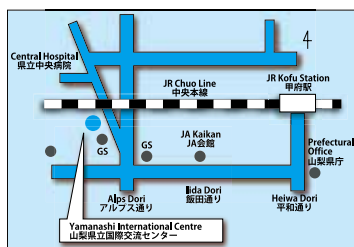
- 発行 公益財団法人山梨県国際交流協会
- 編集 雨宮由里恵
- 翻訳 豊田美紗 林マイザ

- Published by Yamanashi International Association
- Edited by Yurie Amemiya
- Translated by Misa Toyota Maisa Hayashi

The International centre is open daily from 9:00am to 9:00pm except on Mondays and on the day following a national holiday.

URL www.yia.or.jp

MAIL webmaster@yia.or.jp



〒400-0035 甲府市飯田2-2-3
tel 055-228-5419 fax 055-228-5473
2-2-3 Iida, Kofu-Shi, Yamanashi-ken,
Japan 400-0035